



PARSEC: 自然保護区が社会経済に及ぼす影響の 多国融合研究を通じた新たなデータ共有・再利用手法の構築



国際コンソーシアムリーダー: ニコラ・ムケ、ダビド・ムイヨー、アリソン・スペクト、シェリー・ストール

助成総額: 1258千ユーロ

助成期間: 48か月

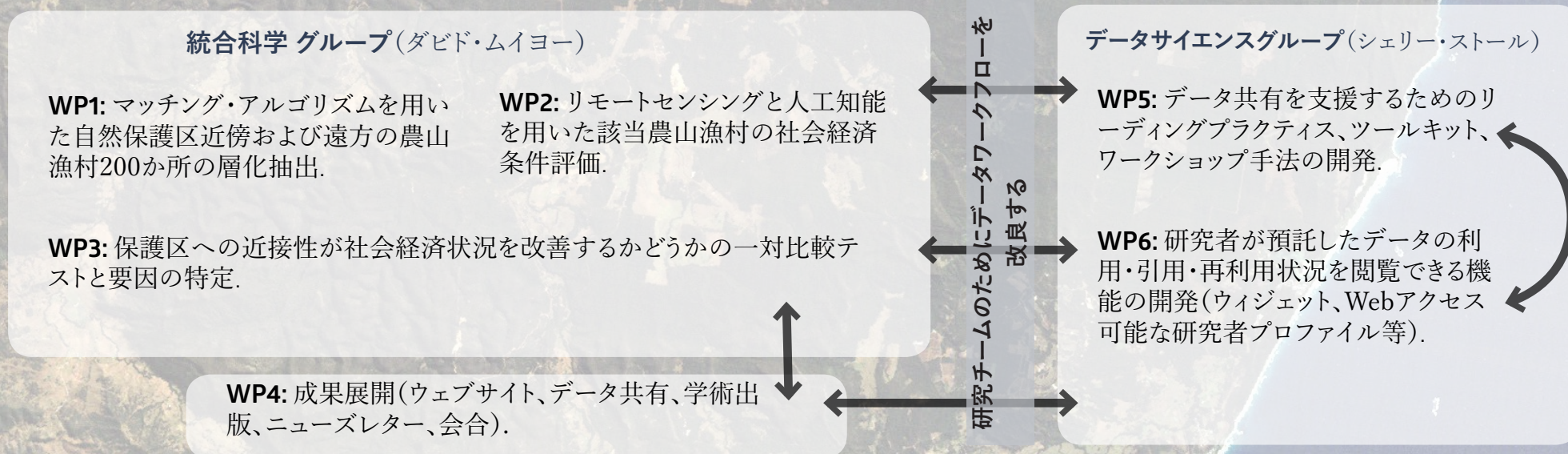
研究の目的

- (a) 衛星画像と人工知能の融合により、地域社会の社会経済に対する自然保護区(PA)の影響を予測する。
- (b) 保護区が地域社会の消費支出と地域資源の健全性にもたらす影響を特定する。

- (c) 将来の環境に対する意思決定のあり方をより良くする。
- (d) 研究者・資金・成果物・データ間のデジタル連携をより良くする。
- (e) 研究データフローを改善し、チームによる研究のスキルを向上させる。
- (f) データ引用の数を増やし、データ作成者への帰属をより明確に示す。

- (g) データの再利用に向けてオープンでFAIRなデータの管理・保存を推進する。
- (h) 研究者が、自分が保存したデータがどのように引用・再利用されているか視覚的に把握できるツールを提供する。

<http://parsecproject.org>



参加国

ブラジル: サンパウロ大学 - ブラジル連邦共和国サンパウロ州学術研究支援財団(FAPESP) - (P. ビツィガッティ・コレア) +

ポスドク・技術支援員(FAPESP)

フランス: 生物多様性研究財団、トゥールーズ第三大学 - フランス国立研究機構(N. ムケ)

日本: 情報通信研究機構、総合地球環境学研究所 - 科学技術振興機構(村山泰啓)

米国: アメリカ地球物理学連合 - 国立科学財団(S. ストール)

協力機関

オーストラリア国立大学計算基盤センター(L. ワイボーン)、英国地質調査所(H. グレーブス)

後援

DataCite, ORCID, ESIP, RDA, EDI, WDS, AST, JWP, TNC

